

赤岩沢から枯木山

大竹 尚子

■山行年月日:2021年7月30-31日

■メンバー:大竹幹衛 大竹尚子

■コースタイム:

30日 田代スーパー林道 11:00～赤岩沢出合林道終点 11:55-12:25～標高1330m付近二俣 15:00

31日 テント場 6:00～15m滝 6:55-7:10～1530m二岐 7:35-7:45～枯木山 9:30-10:00～1530m二岐 11:10-11:20～テント場 12:50-13:30～林道終点 16:00-16:10～田代スーパー林道 17:00

沢から枯木山へ登りたいと思っていたが、渡沢だと距離が長いので田代スーパー林道で距離を稼ぎ、赤岩沢からアプローチしてみることにした。若い人なら日帰りの沢だろうが中高年のパーティーでもあり、またはこのところの暑さから逃れたいこともあり一泊で遡行してみることにした。

30日 田代スーパー林道の標高約1,000m 付近の駐車スペースに車を停める。さっそく車の周辺には大きなアブが寄って来る。メジロアブも少し。準備をして新道沢へ向かう林道を歩き出す。新道沢を横切り、細い踏み跡を辿って林道の終点まで進む。ここは沢の出合いになっていて深い釜がある。昔の記録を見ると、右俣に丸太橋がかかっていたらしいが、今はそれもない。沢に入る手前で、ソーメンの昼食。幹衛さんは釜に釣り糸



最初の深い釜

を投げ入れてみるが、当たりなし。釜の左を登り、赤岩沢入って行く。かすかな踏み跡が流れの左右に見られる。

2m程の小滝が続き、流れが大きく左に曲がる所には4mの滝がある。ここは右の斜面が崩れていて倒木が散乱していて、崩れた斜面を登る。小滝群を過ぎると流れは穏やかになり河原状になる。左から支流が入ると等高線が混んできて、また小滝が連続するようになってどんどん標高をあげる。

やがて幕場に予定していた標高1330m付近の二俣となる。ワイヤーがかかった苔むした丸太もあり、材木の切り出した



小滝が続く

形跡が見られた。あまり良いテント場がなく、大きなイタドリを倒してどうにか2人用テントを張る。右手の沢の水は冷たく、吹いてくる風も涼しい。というか寒い。思わず雨具を着こむ。下界の暑さはどこに行ったの？暖かい飲み物が欲しいくらいだった。

31日 昨夜は満天の星空だった。幹衛さんは「山頂に行くぞ」と登る気満々。出発してすぐに大量の流木が沢を埋めていた。距離にして150mくらい。2015年の豪雨被害だろうか？障害物競走のように一つ一つ越えていくしかない。それが終わると流れは徐々に北に向きを変える。すると15m滝の大滝が現れた。さてどう登る？よく見ると先行者の踏み跡が左岸のガレ場に見える。そこを辿り、小さく尾根を回り込んでいくと沢に降りられた。その先も滝がいくつか続いてどんどん標高を上げる。先行者が懸垂に使った捨て縄が残っていた滝もあった。標高1500mを過ぎ、水も枯れて来た。このあたりから、上部ではできるだけ藪を漕ぎたくないと思われ、山頂にまっすぐ突き上げるルートを選ぶ。枯滝から藪に入る手前2ピッチはザイルを付けて登った。幹衛さんは意気揚々と登って行った。

藪と言っても背丈の低いササがダケカンバの下に広がっているのであまり藪漕ぎの苦労はない。ササをつかんでゆっくりと登り、藪に入ってから約30分で山頂に着いた。ヤマザクラの木に見覚えのあるプレートがあった。その下には藪の中に三角点を確認できた。

下りは少し南寄りにルートを取り、急斜面を下って沢に合流した。先ほどの捨

て綱があった滝は滝つぼに落ちないように懸垂して降りるのが難しかった。

幕場でソーメンのお昼を食べているうちに、空模様が怪しくなってきた。テントを撤収し沢を下り始めると雨が降り出し、やがて本降りになってきた。雨の沢はほんとに滑りやすい。うっかり木の上で滑り転んでしまった。だんだん水量も増えてきて、大丈夫かいな？と思ってしまう。ようやく林道終点の二岐に着いたが、水量が多くなっていて釜が深い。ここは安全に小さく懸垂する。やっと林道に着いた。雨も止んで、陽射しが戻って来た。さて、この雨は県境周辺だけだったらしく車で下って行くと道路は乾いている。本当に山の天気は変わりやすい。

この沢では、久しぶりにセンジュガンピの白い花を見た。赤岩沢の詰めには大群落を作っていた。山頂よりも心惹かれる眺めであった。



センジュガンピ